

## はるさん（つきとおひさま）「食べること、暮らすこと」

私は今料理やお菓子をつくらせてもらい、それをみなさんにお届けしたりして、暮らしています。大好きな農家さんのお米や野菜を料理させてもらっているのですが、時には畑と一緒に野菜を採らせてもらったり、土に触れたり太陽の光を浴びたりする中で、野菜たちと向き合いながら本当に幸せな料理をさせてもらっています。優しい人の育てる野菜たちは本当に優しく美味しいです。そんなお米や野菜たちを、料理して体に入れさせてもらって…これは人が生きていくうえで、基本的な大切なことなんじゃないかと思います。そういう感覚を、みんなで共感し合えたらという想いで私は今この仕事をしているのだと思います。

私が今していることは、子どもを2人抱えて家計的にはかなりリスクもあることで、今の一般社会の常識からすると、ちょっと考えられないことかもしれませんが、でも、自分で本当に好きなことをするようになってから、心の奥底から幸せを感じられたり、優しく素敵なたちに囲まれたり、本当に大切な道を生きている感覚になってきました。ほんものの豊かさとは、こういうことなんじゃないかと私は感じています。今の社会は、お母さんたちも毎日忙しくて、なかなかごはんをつくる時間さえないのが現状だと思います。私自身もずっとそうで、いかに早くて簡単にできるものを…と子どもにごはんをつくるのがおざなりになっていました。自分自身にも、でも、「あ〜、なんだか大切にする順番が違う」といつも違和感がありました…。

料理は「愛」のかたまり、光だと思います。子どもたちは、人は、それを食べて「美味しい」「幸せ」と感じて満たされたり、輝いたりするのではないのでしょうか。これは頭で考えることじゃなく、感覚的に知っている、自然に備わったものだと思います。自然界のものたちに手を加えさせて（料理させて）もらい、それをいただく。そういう自然でシンプルで、でも人間に与えられた特別な「料理」させてもらえるということに感謝して、最高に豊かで幸せな暮らしをしていきたいなと思います。

私は子どもたちとほんものの豊かさを、真に生きるということを感じ合って生きていきたいなと思っています。周りのお母さんたちや子どもたちや、様々な人と、共に気づいたり、共に楽しんだり、そんな中で幸せな暮らし、明るい未来をみんなで築いていけたらな〜と思い描いています。

### もりさや（シンガーソングライター）「うた」

突然ですが「私はこの世にいてもいいかもしれない」と思ったことがあります。笑顔を作ることもできなくなって、毎朝海まで走って、amazing grace を歌って、なんとか自分を保った。ある日気づいたら、元気になっていた。私はそうやって歌に救われた経験があった。だから、歌を仕事にしたいと思いました。歌の力は何なのか？悲しくもないのに勝手に涙が出てしまうのはなぜだろう？同じ歌（楽器）を別の人が歌った（弾いた）時、感じ方が全く違うのはなぜだろう？そもそも音って、歌って、声って何だろう？こどもたちと大人の感性の違いってなんだろう？芸術の必要性って何だろう？と答えを探しながら、歌ってきました。

同じものを見たり聞いたりしても、0歳〜1歳の間が一番受け取る情報料が多いのだそうです。そして、受けてきた情報量で、見えるものが違ってくるのだそうです。体感したものによって、見えるもの・感じるものが全く違うのですが、その情報量が一番複雑で多く入っているのが“自然”です。波の音や葉がこすれる音。石の音。人や動物の声。機械音とは全く異なります。においや色も、到底人間には生み出せないものばかりです。これらの情報が、芸術に触れたときの感じ方や相手を思いやる事、物事を受け止める力や想像力・創造力をつけるのだと思います。大人になっても訓練次第で見えないものが見えるので、意識してほんものを見る事が大切です。だから私は生音が、生身で人と会う、その場所に行く事が好きです。

歌は、肺に吸い込んだ空気と言葉やメロディを乗せたものですが、そこには意識も言霊もある。歌に限らず、器や農作物も、絵や料理も意識次第で宿っているものが変わってくるということです。それだけ意識（愛情とも言うかも）は大切な“情報”で、歌う時の意識ひとつで同じ歌も別物に聞こえるし、楽器の音色だって違ってくる。時にテレパシーにすらなる。そして、古くから歌い継がれてきた神歌やわらべうた、民謡となるとた〜くさんの人達の意識が受け継がれていて、そのエネルギー量は計り知れない。こどもたちは、これらの歌に封じ込められている“情報”を身体ごと釘付けになって感じ取ってくれている様子をよく見ます。

“自然の中にいること、人と人がぶつかりあうこと、たつぷりと時間があること”からこそ、想像力、創造力、芸術、その芸術を受け止める力が生まれていたのだと思うのです。それは、全て昔の人々の生活や子育ての中には勝手に備わっていました。こどもの喧嘩や怪我だって大事な気づきを得るきっかけだし、大人の仕事を手伝ったり真似するだけで、知らずに身に付く技術や感覚がある。博物館や資料館には、昔の道具や生活の知恵、歌い継がれていた歌、それら芸術が残っています。老若男女問わず沢山の人達が関わりあい、家を建て、農作業して、自然に生かされ、自然の中から作り出すものに囲まれていたのを見ると、ものに魂があることだって勝手に感じ取れます。

現代は、自然から離れ（壊し）、人から離れ（わざわざ人の手を借りずにできる事が多くなってしまった）、時間に追われ（昔ならやらなくてもよさそうな仕事が多くなってしまった）てしまった。しかし、今の時代だからこそできる事もあるし、便利になったからこそ生まれた時間を有意義に使う工夫をすれば、先人に学びつつ、すごい世界が生まれるはず！そういう時間や、空間を私は芸術（特に歌）を通してお手伝いしたい。

私は昨年から、0歳〜未就学の小さな人達に生の芸術鑑賞を届ける活動「アートスタート」に関わらせていただいています。人形劇歴40年！の、人形劇団ひばろたあむの永野むつみさんは「大人でも予想のつかない演劇の悲しい展開を察して、こどもたちの様子が変化していくことがあって、その様子を受け止めきれない親が多い」とおっしゃられていました。「飽きているように見える行動、言動をしても、深層心理の部分を察せない親が多い。こどもたちは芸術の世界に当事者として入り込める能力を持っているから、演じる側も親も、その力を限りなく信じる事が大切で、“こどもだからこの程度でいいか”なんて失礼なこと」と。すごい言葉ですね。鳥取県のアートスタート活動は日本でも最先端で「これは世界に通じる活動」と言われています。是非一度体感してください。

私は、歌を通じて、子供達からさまざまな物事を肌で感じ、学んでいます。これまでお伝えてきた事柄も、子供達は潜在的に知っていると思います。わたしがこどもたちにしてあげられることは、誠心誠意、全力で舞台を、歌を届ける事くらいです。そしてこどもたちの様子を間近で見て、大人が、親が何かすごいエネルギーを感じ取れる場を、つくる。できるだけ自然の近くで、生音で。これらすべてを自然体でやってしまうのが「よしととひうた」のお二人や、「Warabe-uta Party」と一緒に演じさせていただいている、坂野知恵さんやIBUKIさんだと思います。

今年は、シュタイナー教育の中の発声法、アンカヴァリング・ザ・ヴォイスというものを学んでみようと思っています。それを習得したら、声の中の情報量が増えて歌の世界がまた広がるかな？楽しみです。

## 技

### 田中信宏（COCOROSTORE）「伝統」

自然素材から工芸品というものは出来ている。

この自然素材を巧みな技と創造性によって丈夫で精巧且つ美しいものへと形を変え、次世代へと受け継がれていく。この美しい里山や自然は私達の先祖が開墾し田畑や小川を形成・調整して現在の手自然（人が手を加えた自然）として既存する。長い期間を要してひとつひとつ次世代の子供達に苦勞の無いようにと受け継がれてきた、この風景をわたし達はどのようにして次世代へ渡す事が出来るのだろうか。

この手自然と現存するこの地の手仕事によってわたし達の生活が好循環していく形を今一度見直してみるきっかけとして、この依頼は大変嬉しいものであった。人となりがわからないモノに溢れ愛着が湧く訳の無いままにモノは廃棄され、飽和状態になりつつある地域外コンビニエント（便利な・都合の良い）企業の横行の最中。

わたしはこの鳥取近隣の工芸という分野で伝えたい事の一つに大切に使い終える事を提案したい。使い手（使用者）のもとへ受け渡される時に、作り手（工芸の分野でいう職人）の想いと作り手へ手渡されるまでに携わった方々の想いを配り手（販売者）として伝えなければならぬ事のひとつとしてわたし自身考え続けていきたい。

## ごるご（百姓）「暮らしと住まい」

今まで古民家に住み、農、食などを中心に自ら生み出す生活をやってみようとしてきたが、今回はこうたくんと家を建てることにも挑戦。場所は八頭町にある八東ポニー牧場。私が大学生の頃から関わっているハーモニカレッジという青少年育成活動団体。今は空山という場所を拠点に活動しているが、スタートしたのはこの八東のポニー牧場。この牧場もみんなで手作りされ、ところどころ名前や手形が刻まれている。私も大学生時代自転車で通い、子どもが馬にのる横で走ったり、木登りや探検したりしていた思い出の場所。そこで来春から年とったポニーがのんびり過ごす場所として再生する案があり、私が管理人も兼ね生活することになった。馬小屋の一部を改装しての家づくり。

はじめは何もわからず、言われるままに作業をする。こうたくんには出来上がり像が見えているように段取り良く進んでいく。米づくりもはじめはそうだったと思出す。全部の流れがわかるようになり、今やること、段取りがわかる。そう考えて動けるようになることが百姓仕事の楽しいところ。とりあえず、生活スペースはできた。あとは暮らしながら、イメージしながらつくっていく。

すてきな未来を描いて、今を過ごしたい。

## 食・住

### ときお（鍼灸師）「鍼灸」

「灸を据える」「やいとを据える」などの言葉が示すように、一般市民にも以前（江戸時代まで、場所によっては昭和ぐらいまで）は灸療法が浸透していました。お灸は家庭でも普通の事として行われてきました。しかし、西洋医学流入以後の明治、大正時代には衰退していき、現在の状況に至ります。

現在鍼灸治療を受けたことがある人は7％以下との調査もあります。鍼灸といえば肩凝り、腰痛、膝痛に対するの治療法と思われる人もいるかもしれませんが、WHO（世界保健機関）では神経痛、自律神経失調症、不眠、糖尿病、更年期障害、不妊など74種の病に効果があると記載されています。その中でもお灸は昔から一般市民でも出来るものとして広まりました。お灸は艾（もぐさ）というものを使いますが、これはヨモギの葉を精製したもので、今では一般向けに簡易なものも売られています。なので、これらを使い、みなさんにも自らの身体に興味をもってもらいたいと考えています。そして、それこそ私がみなさんに伝えたい、医療も自律と自立が必要だし、出来る！との思いに繋がっていると感じています。2013年よりも更に更に、2014年はみなさんに東洋医学感、鍼灸の素晴らしさが広められるよう全国を地味に動いていきたいです。

## 医

### 岸本さん（木地師）「木」

宇宙から地球をながめると、青色と緑色と茶色が目立つそうです。

青は海、緑は森林、茶色は砂漠や都市です。日本は3分の2が緑色で森林が多い国、自然が豊かな国だといえます。豊かな自然は木などの植物だけではできません。もちろん動物だけでも豊かな自然は作れません。たくさんの動物や植物がお互いに助け合いながら生活（共生）しなければ、自然を豊かにできないのです。『森は海の母』といわれます。どういうことかわかりますか？豊かな森はおいしい栄養、豊かな水をたくさん貯える自然のダムの役割もしてきました。この森の水は、川を下り水田を満たし、海へ流れ魚や海藻やカキなどを育ててきました。森は森で暮らす動物たちだけに恵みを与えてきたのではないことがわかります。

ところで、日本の森林の40％は人工の森＝植林された森です。ここでは、人間の手で植えられた木と人間が共生してきたのです。木を植えて大切に育て、成長した木を建材や食器、薪や炭を作ったりしてきました。私の仕事は木で食器を作ることです。豊かな森がないとできない仕事です。でも今、この森は死の森になっています。それは、人間が共生することをやめてしまったからです。人間が手入れをしなくなった人工の森は、動物たちだけでは支えきれないのです。

むかしむかしの大昔、大きな木が何千本、何万本も生えている緑豊かな国がありました。ある王様が神殿を建てるために木を切ることを命じました。森の木は次々に切られて立派な神殿と立派な街ができあがり、人々は豊かな暮らしを楽しむことができました。国中の木を切ってしまったこの国がそれからどうなったか？木がなくなった森はやがて砂漠に変わり、砂漠に囲まれた人々はそこで暮らすことができず、やがて街や神殿は砂漠の下に埋もれてしまいましたとさ。レバノンには砂漠の国ですが、不思議なことに国旗の真ん中に大きな杉の木が描かれています。この昔話はレバノンで本当にあったお話です（ギルガメシュ叙事詩を読むと、もののけ姫とそっくりなお話もあります）。豊かな森林は壊しすぎればなくなってしまいます。人間が作った人工の森林は放っておくと壊れてしまいます。どちらも、人間に災いをもたらします。これからも豊かな森林の恵みをいただくためにも、森林との付き合いかたを考える！

これは自然豊かな日本で生活する私たち全員の課題です。木工をしながら、いつも考えています。これからどうすればいいか、皆さんもいっしょに考えていきましょう！

## 澤田直美（野原のカフェぽすと）「いのち」

気がつけば、言葉を綴り、絵を添えて、「うさぎとかめのふたりごと」というテーマで作品を描き始めて14年になっていました。最初は撮りたまった写真を整理しようと、スケッチブックに貼った写真に言葉を添えたことが描くことの始まりでした。そんな時、たまたま母親の実家である島根県の赤名というところで撮った一枚の写真。稲刈りが終わったあとの田んぼに少し水が溜まっていて、そこにお日様の光が反射してキラキラと輝いていました。撮った時にはただ、「何だかきれいだな・・・」というくらいの気持ちだったのですが、そこに言葉を添えようと改めて見たときに、思わずはっとしたことをよく覚えています。「これさえあれば、生きてゆけるんだ」。これっていうのは、水と土と光（空気）のこと。わたし達は日々、色々なものを目にしたり、耳にしたりして、何だか欲しいような気になってしまっているけれど、本当に必要なものはもうすでに与えられているということ。そんなことに気がついた瞬間でした。そしてそれから随分年月は経ちました。

地元を離れ鳥取の自然が豊かに残る智頭町に暮らし始め、そして結婚、土に触れる生活、出産、その間に起こった3.11の震災・・・そんな中でその想いはますますリアルに、そして強く感じるようになってきました。

今、双子のうたたね達と、共に育つ経験をさせてもらいながら、子ども達の未来に残したいものはまさに「水と土と光と愛」。大人として、親として、それらを残し、伝えてゆく責任を感じています。

どうか、日々の無事を喜びながら、出会いの妙を楽しみながら、清らかな水と健やかな土と澄んだ空気と、ふくふくとした愛の中で全ての命が共に生きあえますように・・・

## 手塚さん（エネミラとっとり）「エネルギー」

ラッキーなことに私たちは未来を選べる。エネルギーを選べば、未来は変わる。今日食べるものが明日のカラダをつくるように、いま使うエネルギーの選択が鳥取や日本、世界の未来につながっている。2016年に向けて電力会社も選べるようになります。

暮らしは、ずいぶん豊かに、便利になった。もう十分なんだと思う。だから、これ以上、余分な電力はいらないし大きな発電所もいらないのです。想像してみよう、遠くから来るエネルギーが、自然や人や社会を壊し、奪い合いや戦争を引き起こしていることを。エネルギーを他人事にしたままでは、巨大な成長システムに巻きこまれ続けることを。だから、自分で考えて、判断して、選ぼう。自然エネルギーは、そこにある地域の宝物。だから、イモ車とかまどと薪ストーブのある暮らしは私にとって懐かしい未来そのもの。

誰もが手に入れられる自然の力をかりて、大きな力からの自由と、こちよい豊かさを手に入れよう。望む未来を選ぶために、エネルギー自立の地域をつくろうと、みんなの発電所作りをはじめています。自分たちのエネルギーは自分たちで決める、お金やものの流れ、意思決定の流れを変えるはじめての一步。経済状況や政治が変わっても、ゆるぎない、たくましい地域の未来を、力を合わせればきつとつくれる。一緒に未来づくりを始めよう。

## エネルギー

## 山

## いのち